



from PARIS



休暇中のお店が続く夏のパリ

フランス国民の幸福度

冬が暗く長いだけに、フランスでは楽しいクリスマス休暇を心待ちにしています。もっとも新年の祝日が1月1日のみとあって、のんびりムードは意外に長く続きません。長いのは何と言っても夏休みで、1カ月閉まるお店もぞら。OECD（経済協力開発機構）パリ本部内の食堂などは7月半ばから8月末まで閉店し、「夏に出勤するなんて野暮ですよ」と諭すかのようです。

それほど長い夏休みを楽しむフランス国民はやはり所得水準から察せられる以上に幸せなのでしょう。このような疑問に答えるべく、人々の幸福度を測る動きが世界的に拡大しています。中でもフランスは、サルコジ前大統領が2008年に先進国でいち早く検討を指示したほか、OECDも幸福度を各国比較するなど、そうした動きが活発な地と言えます。

幸福度の計測方法のひとつは幸せに関連しているとみられる各種指標を平均することで、OECD

によれば、フランスの順位はOECD加盟国の中ほど。計測に使われた指標をみると、フランスは、ワーク・ライフ・バランスを評価する「余暇・個人活動に充てる時間」や環境を評価する「大気汚染度の低さ」などで高順位となっています。

ただ興味深いことに、あるアンケートでみると、フランスの労働者はワーク・ライフ・バランスについて欧州諸国の平均並みにしか満足していません。環境についても良いとばかりは言えず、パリではゴミやたばこの吸い殻をよく見かけます。

幸福度を計測する際には、どんな指標を使うのか、感じ方の個人差をどう考慮するとかいった難しさがあると言われます。OECDによればフランスと日本の幸福度の順位は同程度ですが、この結果を知ると、両国民はどんな反応をするのでしょうか。

（経済協力開発機構〈Organisation for Economic Co-operation and Development〉本部、パリ）

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。

OECDの試算による幸福度（最高で1、最低でゼロ）

